千島の植物について

札幌市　吉　野　博　吉

私は山野草に趣味をもってから既に60年余りの歳月が流れている。振りかえって見ると、われながら驚くばかりである。

千島・樺太の植物は戦前においてはかなり多くの人が栽培していたが、戦後半世紀を経過した現在では、わずかに培養されて残っているもの、残念ながらその姿を消してしまったものなど時代の流れと共に貴重な存在となってきている。ここに千島の植物について、昔を思い出しながら記してみたいと思う。

植　物　名	分布と採集地及び所見
アライトツメクサ 学名不詳	名前のとおり北千島アライト島のいたるところに分布していて台地上の処々に群落をつくっている。7月頃に可憐な花を咲かせてくれる。 北千島では占守島と幌延の両島に分布している。ツメクサ類のなかではかなり人気のある種で今後は大切に保存していきたいものである。
アライトヒナゲシ Papaver alboroseum var. elongatum HULTEN	最初はアライト島で発見された品種で幌延島、温禰古丹島にも分布している。昨年発行の北方山草第9号に戦後はじめてカラー写真で公開され注目された。培養品は北千島と言われているが、現地の写真と比較して見ると個体差が見られ今後の課題を残す品種である。
ムラサキイワベンケイ Rhodiola caespitosa form humilis NAKAI	現地では海岸の岸壁から台地にかけて見事に群生している。普通のベンケイソウから見ると栽培しにくい感じがする。最近同好者間で注目されてきた品種である。分布も南千島より北千島に広がっている。
チシマイチゴ Rubus arcticus	現地では台地上より草原にかけて紅花を咲かせている。姿は特に目立つ。丈夫で栽培しやすいのでロックに植込むとよく増える。分布は広く千島・樺太よりカムチャッカ・アリュウシヤン列島、周極地方に広く分布。発見は古く明治25年に多羅尾忠郎氏が北千島で発見し宮部先生が命名したものである。
ヒメクモマグサ Saxifraga bronchialis ssp. cherlerioides.	地域により固体差のある種で現在栽培されている種は、北千島産と言われているもので、シコタンソウ類では最も小型である。分布も北海道・千島・カムチャッカ・アリュシャン列島・北半球と広い。分類学的にも諸説があるので同定の困難な種類である。
チシマハマカンザシ Armeria vulgaris var. arctica	外国では種類の多い属ではあるが、本邦では千島と樺太にあるのみで、カンザシのような花はなかなかユーモラスで美しい。現地では台上と草地に生育していて群落をつくらない。最近北米経由でカラフトハマカンザシと云われている品種が輸入されている。